



新聞・マジック・笑い……。

子供たちの成長と幸せに活かす

新聞活用術講師佐藤新聞店専務兼マジシャン 佐藤 康弘さん（42歳）

お笑いを交えたマジックを各所で披露しているエンターテイナー「シュガー」こと佐藤康弘さんは、マジックだけでなく教育に関しても熱い思いを持つ人物。子どもたちの笑顔のために、今までにないスタイルの教育文化を作るべく活動している。

普段は家業の新聞店で働く佐藤さん、マジックに出会ったのは30代半ば。たまたま旅先でマジック道具を見かけたのがきっかけだった。同好会で指導を受け、今ではマジック

ク教室を主宰するまでになった。2年前には相方の大越要さんと出会い、お笑いコンビ「シュガー&ソルト」としても活躍している。

マジックを始めたのと同時期のこと、新聞を広げると教育関係の記事ばかり目に留まるようになった。佐藤さん自身、授業の在り方に疑問を持ち、学校が好きではなかったからかもしれない。やがて「夢新聞」の存在を知り、初めて目にしたとき「自分のやりたかったことはこれだ！」と衝

撃を受けた。「夢新聞」とは、自分の夢や目標が実現したことを報じる、未来の新聞のこと。具体的にイメージして自分で作ることで、自信につながるという。

「夢新聞」との出会いを機に、新聞を教育に活かす「NIE」の活動を始める。この春から学習塾の一コマとして、新聞活用術の教室を始めました。「夢新聞」のほか、気になる記事を紹介し合う「回し読み新聞」、新聞を使ったクイズなど、子どもの個性に合わせて進めていく。「何事にも柔軟に」と佐藤さん。ショーで観客の子供が舞台上上がったときも即興で一緒にマジックをした。型にはまるのを嫌う一方で決まっているスタイルもある。印象的だったのは、「自分が楽しむことで相手にも楽しさが伝わる」「信じてあげることが能力は伸びる」ということ。



参加して楽しめるステージは子供にも好評（上）、お笑いコンビ「シュガー&ソルト」（左）



20代のころスノーボードレッスンの仕事をしていた際から心掛けていたことだ。

新聞もマジックも笑いも脳の発達を促す。身に着けた多方面の技術と経験を活かし、不登校やいじめがなく、子供たちが幸せに成長できる、不登校やいじめのない環境を作るのが佐藤さんの夢だ。

（取材・文 村松 マヤ）

肌荒れとハトムギ

秋になりホツとしたのもつかの間、肌荒れという新たな問題が浮上してきます。夏の間疲れた消化器系に自然界の乾燥、さらに秋特有の情緒の不安定が加わり、肌のトラブルが起きやすくなります。肌の条件は3つ。「飲食」「休養」「心持ち」です。バランスのよい食事を取り、十分な睡眠と休養、その上でストレスを上手に解消していけば美肌が手に入るというわけです。

一時期、美容界でハトムギがもてはやされていましたが、ハトムギには色を白くし、美肌効果が。老化した肌細胞を分解し、肌に潤いを与えてくれるからです。肌荒れ、肌のくすみが気になるときは、ハトムギ茶がおすすすめ。漢方ではハトムギの種皮を取り除いたものを薏苡仁と呼び、江戸時代の儒学者・貝原益軒が、『大和本草』の中で、薏苡仁にはイボ取りや母乳を増やすと書き記しています。お米と一緒に炊くもよし、お茶やサラダのトッピングなど、上手に利用して美肌キープを。

（国際中医薬膳師 小清水由良）



5年ほど前に2018年9月の日付で作った佐藤さんの夢新聞は、ほぼ実現している。マジックや新聞活用教室の依頼は佐藤新聞店（22-0639）まで。最新情報はFacebook参照